

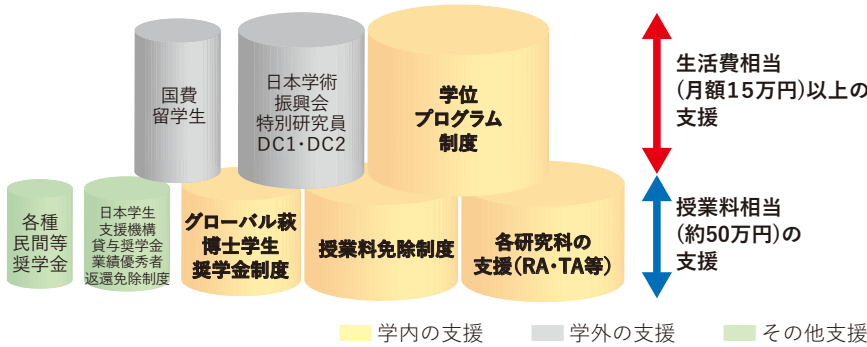
博士課程後期学生の 包括的な経済支援パッケージ

～ 東北大学はドクターの学生を応援します！ ～

東北大学では、博士課程後期学生に様々な経済的支援の充実を図っており、そのうち生活費相当(月額15万円:年額180万円)以上の支援を受けた学生は3割を超えています。
(※社会人学生及び休学者除く平成30年度の推計)

東北大学における大学院の経済的支援の概要

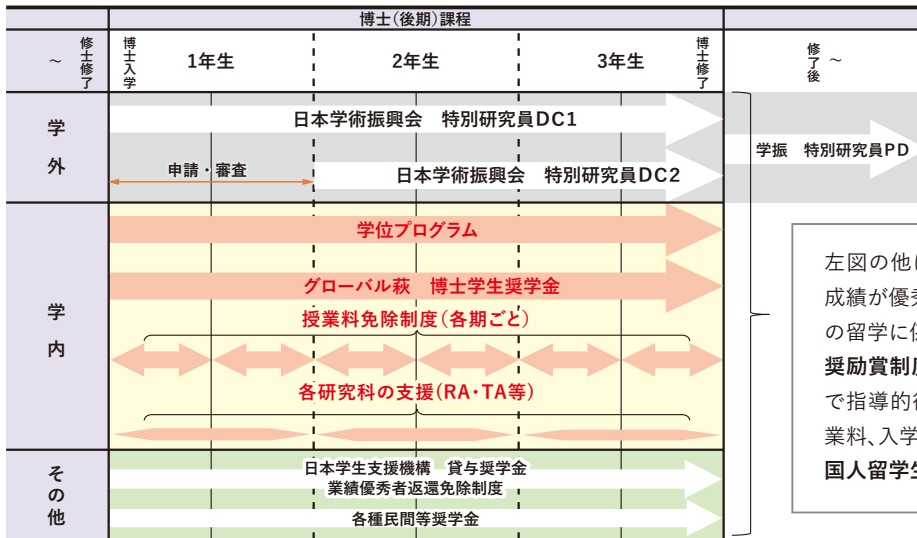
博士後期課程の主な経済的支援概要(平成30年度)



左図は大学院における経済的支援制度を図に表したものです。

各支援によっては重複申請や受給が可能となる場合があります。申請時期や条件等の詳細については各制度により異なりますので、各担当係にお問い合わせください。

博士後期課程における経済的支援制度の流れ

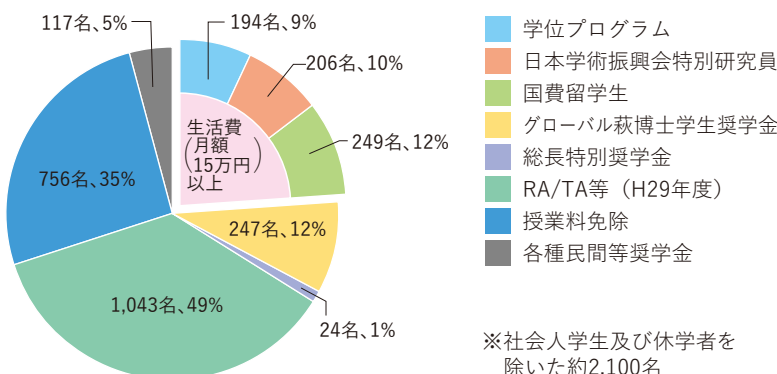


※各経済支援においては重複申請や受給が可能となる場合があります。

左図の他に、本学の学生(外国人留学生含む)で、学業成績が優秀な者に大学間又は部局間学術交流協定校との留学に係る支援を目的とした「グローバル萩海外留学奨励賞制度」や、私費外国人留学生を対象に、国際社会で指導的役割を果たす人材を育成し支援するため、授業料、入学金及び検定料相当額を支給する「東北大学外国人留学生総長特別奨学生制度」があります。

支援及び受給者数(平成30年度)

支援受給者と割合



左図は平成30年度の本学の博士課程後期学生数約2,700名のうち、社会人学生及び休学者を除いた約2,100名中、各経済的支援を受けた者のグラフです。重複可能な支援もあり、受給者数合計は延べ2,900名となります。このことから支援を申し出た博士課程後期学生には、ほぼ何らかの支援があると言えます。

また、生活費相当(月額15万円:年額180万円)以上の経済的支援を受けた学生は3割を超えています。

※2018年における東北大学生(自宅外生)の生活費平均額
1ヶ月あたり 121,300円
[東北大学生生活協同組合 第54回学生生活実態調査]より引用

東北大学の経済的支援(学内)

1 学位プログラム

学位プログラムの学修は、通常の研究科の履修に加え、プログラムのカリキュラムが付加されることとなるため、アルバイト等を行う時間が確保できません。そのため、経済的な不安がなく、学業に専念できるよう、プログラム学生への経済的支援を行っています。また支援内容はプログラムにより異なりますが、博士課程で最大月20万円の奨励金またはRA雇用による支援や、海外研修が必須のプログラムでは渡航費、研究費の支給などを行っています。これらの支援は本学独自財源等により、将来的に総額8億円の支援を行うことが予定されています。

支援内容一覧

プログラム	在籍学生数(H30.10)	支援内容	支援額(最大)	財源
国際共同大学院	120名	RA雇用 (海外渡航期間中は奨学金) ほか、海外渡航費	月15万円(M) 月20万円(D)	独自財源 《総額4億3千万円》
リーディング	126名	奨励金の支給またはRA雇用ほか、 インターンシップのための旅費等	月15万円(M) 月20万円(D)	補助金 ※補助金終了後は 独自財源
産学共創大学院	— ※H31年・R1年度より 開始。 45名程度選抜予定	RA雇用または 教育研究支援経費の支給ほか、 インターンシップのための旅費等	月15万円(M) 月20万円(D)	補助金 独自財源
学際高等研究教育院	113名	奨学金の支給	年50万円(M) 月20万円(D)	独自財源 《総額2億5千万円》
		研究費の支給	10万円(M) 135万円(D)	

担当 教育・学生支援部教務課教育支援係

2 グローバル萩博士学生奨学金制度(返済不要)

本学に在籍する意欲と能力にあふれる優秀な博士学生を対象に給付奨学金を支給する本学独自の制度であり、平成30年度に運用を開始しました。当該年度は1年生から3年生の計247名を奨学生として採用しました。

支給者数：一学年あたり100名、総数300名程度

※令和元年度からは1年生100名を新規奨学生として、2年生以上は継続奨学生として審査・採用いたします。

奨学金：年額60万円を一括支給(返済不要)

支給期間：標準修業年限である3年間もしくは4年間

選考：学生の所属する各研究科にて候補者を選考し、全学の委員会で決定します。

(日本学術振興会特別研究員や学位プログラム採用者などは対象外となります。)

担当 ●各研究科教務担当係(募集・申請等)

●教育・学生支援部学生支援課経済支援係(制度概要) URL: <http://www2.he.tohoku.ac.jp/shogaku/>

3 授業料免除制度

学業優秀で、経済的に困窮している世帯の学生に対して授業料の減免を行う制度であり、前期と後期の各期で授業料免除を行っています。免除額は授業料全額、半額、1/3額、不許可のいずれかであり、世帯の家計(経済)状況により審査・決定します。

前期分授業料免除申請：

(在校生申請期間)2月中旬から3月上旬

(新入生申請期間)2月中旬から4月上旬

後期分授業料免除申請：

(在校生申請期間)8月中旬から9月上旬

(新入生申請期間)8月中旬から9月下旬

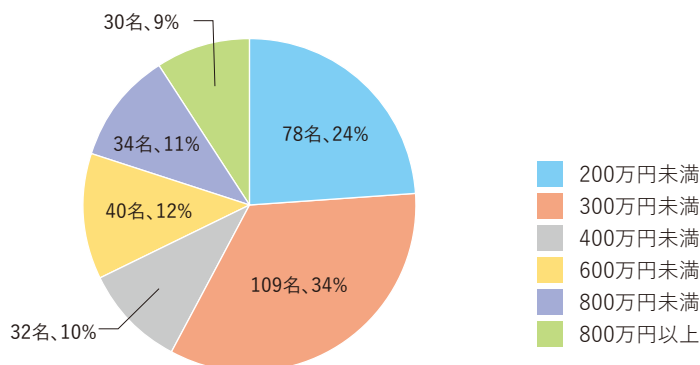
平成30年度
博士課程後期学生の
授業料免除者数及び免除実施額

年度	学期	授業料年額	免除者数*	免除実施額
H30年度	前期	535,800円	679名	230,983千円
	後期		661名	

※免除者数は全額免除・半額免除の合計となります。

平成30年度後期
世帯年収別の免除者数と割合
(日本人学生)

※授業料免除は、世帯全員の収入を合算し、そこから世帯の状況(家族構成、修学状況など)により控除された金額をもとに判定されます。



担当 教育・学生支援部学生支援課経済支援係 URL: <http://www2.he.tohoku.ac.jp/menjo/>

4 各研究科からの支援 TA・RA

大学院生、特に博士課程後期学生は、学生であるとともに若手研究者であることから、学生を教育指導する実践力、大学院での研究力をサポートするため、TAやRAとして雇用し給与を支給します。

平成29年度 TA該当者…586名 RA該当者…530名 ※各研究科により実施規模は異なります。

担当 各研究科教務担当係

学外の経済的支援

5 独立行政法人日本学術振興会特別研究員DC1・DC2

我が国の大学院博士課程在学者で、優れた研究能力を有し、当該大学で研究に専念することを希望する者を「特別研究員-DC」に採用し、研究奨励金(月額20万円)を支給します。

なお、博士後期課程修了後は、申請・審査を経て「特別研究員-PD」の道も開かれています。これらの制度は独立行政法人日本学術振興会が運営・実施しています。

平成31年・令和元年度採用分特別研究員採用データ

DC1:採用者37名(申請者の21.6%)

DC2:採用者73名(申請者の26.0%)

採用期間:DC1は3年間、DC2は2年間 ※詳細は、独立行政法人日本学術振興会HPをご覧ください。

6 独立行政法人日本学生支援機構貸与奨学金 特に優れた業績による返還免除制度

第一種奨学金の奨学生のうち、貸与期間中に特に優れた業績を挙げたと認められる者について、貸与期間終了時において、その貸与額の全部又は一部の返還が免除される制度です。各研究科の推薦に基づき学内選考を経て、日本学生支援機構で審査・決定されます。

平成29年度貸与終了者については、博士課程計31名(全額免除12名、半額免除19名)が免除認定されました。

なお、奨学金の貸与月額は80,000円又は122,000円を貸与申込時に選択します。

担当 各研究科教務担当係(応募期間は各研究科の指定する期間による。)

7 各種民間等奨学金

地方公共団体・民間奨学団体が実施する奨学金制度もあります。

これらの奨学金には、大学を經由して応募するものと、奨学団体に直接応募するものがあります。担当は所属する研究科の教務担当が窓口となります。それぞれの団体により募集要件や申請方法が異なりますので、問い合わせは、担当窓口へお願いいたします。

担当 各研究科教務担当係

各経済的支援における学生の声

各支援における学生からの声を集めてみました。

学位プログラム

- リーディングプログラムで培った基礎的な問題把握力が企業から非常に高い評価を得た。
- 海外研修先で先方の教授に認められ、PDに勧められた。
- 英語研修で英語力が大幅に向上し、インターン先で高評価を得た。

グローバル萩博士学生奨学金

- 奨学生に採用いただく前は、3年間の課程を続けることに経済的な不安を抱きつつ研究をしていました。奨学生となってからは、精神的な不安が大きく解消され、研究活動に前向きに、また明るい気持ちで取り組んでいます。
- この奨学金により研究に専念することができました。来年度より学振の特別研究員に採用となります。研究に専念できる環境に感謝し、引き続き研究に精進します。
- この奨学金がなければ私の研究生生活は成り立たなかったと感じます。今後も未来を担う人材育成を目的としてこのような経済支援を続けてほしいと願っています。

授業料免除

- 授業料免除の制度はとてありがたく助かっている。
- 授業料免除の情報提供をもっと広く行ってほしい。
- 博士課程進学の学生に対する授業料免除を増やしてほしい。

博士学生のキャリアパス

企業・研究機関等から本学の学位プログラム修了者である博士学生に対して多くの声が寄せられており、博士学生のキャリアパスの構築として大きな期待・高い評価を得ています。以下はその一部です。

企業等からの評価

- A社(建設)
 - －土木・建築、ロボット、建築機械、地学等に加え、文系人材も活躍できる。
- B社(電機)
 - －融合型の提案ができる人材採用を狙っており、文系学生は、情報の知識・スキルがあれば、インフラ整備で活躍が期待できる。
- H社(電機)
 - －博士学生は研究の仕方や、高い志、ポテンシャルを持つ場合が多く、評価している。

